

科目名	開講期間	必修/選択	担当者名
リーダーシップから考える企業組織	後期	必修	北原敬之

【授業の目的と概要】

リーダーシップと組織の視点から、企業の成長、経営者の役割を検討していく。中小企業にとってリーダーシップの存在はきわめて重要な領域であり、そのためにもリーダーシップの具体的事例、リーダーの姿を実際の事例から学ぶことが必要となる。授業では、事例をふんだんに取り入れ、日本企業のリーダーシップのあり方を海外の事例との比較を踏まえ検討していく。

【授業計画】

※実践的な授業方法…①企業等、②双方向、③実務家教員・実務家、④実地

回数	テーマ	実践的な授業方法
	授業内容の概要	
1	授業概要説明	③
	企業、団体における組織とリーダーシップに関する基礎知識、問題意識を培うために、基礎となる情報を提供する。特に授業全体を通じて必要となるリーダーシップの実践的意義について具体的に説明を加える。	
2	組織論	②③
	企業経営、企業運営を進める場合、どのようなリーダーシップが必要なのか。授業では、リーダーシップと組織の関係を個々のケースを示しながら解説し、「強い組織とは何か」を考えながら、リーダーシップのあるべき姿を受講者の経験を出し合いながら討論を行い、組織論の視点から考えていく。	
3	リーダーシップ論	②③
	組織におけるリーダーシップの検討を踏まえて、さらに授業では、ケースで学ぶリーダーシップとして「優れたリーダーとは」を考えていく。そのために企業経営、企業組織にとってのリーダーの位置、役割を考察し、リーダーのあり方が組織にどのような変化を与えるか、事例を踏まえて自分たちの職場の状況を報告し合いながら、全体で討論する。	
4	企業論	③
	リーダーシップのあり方は、世界的な視点から見れば、その存在の仕方は多様である。授業では「組織とリーダーシップから見る日本企業のマネジメント」の視点から、リーダーシップのあり方を日本企業の行動特性との関係から評価し、その優位性を解説する。	
5	授業全体総括	②③
	授業の最終回として、授業内容のレビュー・まとめと受講者プレゼンテーションを行い、受講者が得た知見、自分たちで考えた事柄などを討論しながら整理し、今後の課題を明らかにしていく。	

【授業の到達目標】

- ・リーダーシップの様々なあり方を学び、自社に必要なリーダーシップについて自分なりの意見を発表することができる
- ・企業戦略の設定を踏まえ、多様な人材、異文化の中で必要なリーダーの姿とあり方について理論的背景をもって人材像を示し、企業の成長にとって必要な人材の姿を説明することができる

【成績評価方法】

授業参加中に示す積極的な姿勢、授業時間外の課題作成などを勘案し、総合的に判断していく。

【テキスト・参考図書】

授業時間中に紹介するとともに、各回の授業の際にその都度、資料を配付する。